

3年1組 道徳だより

主題名 思いやりの心 内容項目 親切、思いやり
 教材名 「一さつのおくりもの」P.58～P.61

ねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

①教材について

主人公のクマタは、絵本「貝がらの おくりもの」が大のお気に入りでした。しかし、クマタはその大好きな本を手放すことになります。山向こうの村で起こった大水害で大変な思いをしているであろう村の子供たちのために、悩みに悩んで大好きな本を送ることに決めたからです。クマタは本を受け取ったササエからの手紙を読んで、自分が大好きな絵本の中のキツネの子になれたような気がして、とても嬉しい気持ちになります。クマタの温かい心や揺れ動く気持ちを感じ取り、「相手を思いやる」というのは、どのようなことなのかを考えさせることのできる教材です。

②授業の様子

- クマタはなぜ、えらぶつもりがなかった「貝がらのおくりもの」をあげることにしたのでしょうか。
 - ・この本をあげれば、元気になってくれるかもしれないから。
 - ・あげたくないけど、自分よりももっとひどい状況のなかで暗い心で過ごしているかもしれないから。
 - ・傷だらけの本をあげたら、相手が悲しいと思うから。
 - ・お気に入りの本をみんなにも読んでほしいと思ったから。
 - ・キツネの子のやさしさを知ってほしいから。自分もキツネの子みたいにやさしくしたい。

③振り返り

- どのような人を、「親切な人」といいますか。親切な人になるためにどんなことができますか。
 - ・人のために悩んだり、考えたりする人 →人の悩み事を聞いたり、いっしょにいてあげたりする。
 - ・いろいろな人に気をつかう人 →人にやさしくする（困っている人がいたら助ける）。
 - ・困っているときに助けてくれる人 →身近な人からでもいいから、大変そうな人に声をかける。
 - ・だれにでもやさしい人 →たのみごとで、できそうなものはやるようにする。
 - ・一人で頑張っているときに手伝ってくれる人→友達が大変そうにしている時に手伝う。

④担任より

友達との関わりが低学年の頃より深くなり、友達と過ごす楽しさを、より実感できるようになってくる3年生。相手の様子を察して声をかけたり、困っている友達には手助けをしたりする場面も見られます。そして、それらの行動は「困っている人には優しくするものだ。」という、これまでの生活経験の中で培ってきた価値観です。

今回の授業は、そんな児童の価値観に一石を投じるものでした。「宝物のように大切にしている物を、困っている人のためにあげられるか。」これまでの児童の経験からすれば、「あげた方がよい。」となることでしょう。しかし、その結論はすんなりと出せるものなのでしょうか。クマタがあげるかどうか迷っている絵本は、宝物とっていいくらい大切な物です。その絵本をあげるかどうか悩み、葛藤する様子を通して、結論はどうかであれ、相手の立場に立って考え、相手に寄り添う気持ちが大切なのだということに気付かせたいと考えました。表面的な優しい行動だけでなく、深く考え、相手の立場に寄り添うことで、よりよい人間関係を築くことにもつながるのではないかと考えています。